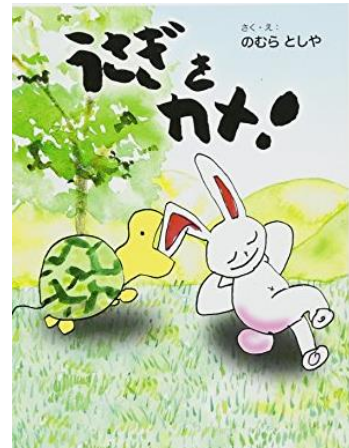


ウサギとかめ

住職 福島伸悦



諸行無常の世に生きている私たちは、十年前とは大きく異なる現代社会を体験しています。デジタル技術の発達と価値観が多様化している社会に戸惑いを感じる今日この頃です。

皆さんは「ウサギとかめ」のお話をご存じだと思います。実はこのお話は日本だけでなく他の国でもあります。しかし、国によって受け取り方が違うのです。日本では、油断をして途中で昼寝をしてしまうウサギさんをカメさんはコツコツとウサギさんを追い抜いてゴールをします。休まず精進するカメさんは見習うべきだと称賛されます。

ところが、インドではどうでしょう。カメさんは悪者になってしまいます。なぜだかわかりますか？ウサギさんは寝ているのかもしれませんが、具合が悪くて横になっているかもしれません。そこを通り過ぎるカメさんはなぜ確かめないのかという非難を受けます。ここでは慈悲心、思いやりの心を大事にしなければならぬと言う事です。

中東ではどうかというと、カメさんは弟をゴール前に隠れてもらってウサギさんの前にゴールをするという話になっています。日本の常識から言ったらカメさんは不正をして勝利するわけですから非難されるべきです。しかし、中東では、兄弟力を合わせて勝利をつかみ取ると言う事で称賛されます。昔から戦争の絶えない中東では家族力を合わせて生き延びなければならない歴史的背景があるのかもしれません。

この「ウサギとかめ」の受け取り方からいえることは、一つの視点からだけ見るのではなく、あらゆる視点から社会と自分の人生を見ることで、ものごとは多面性があることを認識できます。たくさんの視点でものごとを見ることができると、色々な変化に対して翻弄されずに振り回されなくて済みます。

視点が増えると人生の選択が増え、選択が増えると正しい決断ができるということ。自分が持っている視点も数ある中の一つで絶対的なものではないと認識することが大事だと言う事です。